



明日の青梅のために!!

島崎 実 後援会報

No.3

平成28年1月11日発行
島崎 実後援会事務所
 〒198-0063
 青梅市梅郷6-1511
 TEL 0428-76-0358
 E-Mail info@minoru-kai.com



新年明けましておめでとうございます。昨年中は大変お世話になり、誠に有難うございました。皆様方のお陰を持ちまして市議会に送らせていただき、議会内外で精一杯頑張ってお活動しております。本年も皆様方のご期待に添うべく精進してまいりますので、変わらずのご支援何卒宜しくお願い申し上げます。



10月8日
 全国都市問題会議へ参加【長野】



11月11日
 下見まき
 山童し
 遊八
 園幡
 がに
 完屋
 成社
 し隣
 付の



11月18日、19日
 全国市議会
 福研究
 島フオ
 参加ー
 ラム
 ム長
 イ会



11月23日
 梅郷ふれあい祭りのヒトコマです。

「議会報告」No. 3

昨年11月15日に行われた青梅市長選挙で、現職24名中20人の市議会議員が支援した浜中啓一氏が第7代の青梅市長に就任しました。今12月議会は浜中新市長にとっての初議会でした。12月7日に市長の所信表明10月11日の委員会審議、14日の補正予算審議等をへて、17日から一般質問が行われました。私は質問持ち時間の殆ど全てを使い、大きく3問、①新市長の財政運営への考え方・②梅の里の再生・③小中学生の学力について質問しました。今回、私の質問原稿の全文をホームページに掲載しましたので、アクセスしていただけると、幸いです。以下は私の質問と市長及び副市長・教育長・部長等の答弁の抜粋ですが、青梅市の財政は大変厳しい状況にありますので、市長の財政運営の考え方について、持ち時間の半分を使って質問しました。次に質した梅の里の再生問題と小中学生の学力向上は私のメインテーマでもあります。 <http://www.minoru-kai.com/>

私の質問	市長及び担当部長の答弁
(市長の財政運営の考え方について 歳入面・企業誘致)	(市長答弁)
① 今年度当初予算491億円の内、市税は約200億円。内法人市民税は僅か15億円余。景気回復を素直に反映する法人市民税の増収策を考へるべき。企業誘致を強化するため、専門担当部署を作り、人員を増強し2～3年腰を据えて誘致活動をすべきと思う。東芝青梅事業所の閉鎖がトップ記事で報道されている中、金融機関・商工会議所等とのさらなる連携強化が必要。他の自治体の取り組みを良く研究し、必要と有れば奨励制度の変更を含む条例の見直しも必要ではないか？	① 活力ある魅力的な青梅を築くために、産業振興抜きには進められない。都の工業統計調査では市内製造品出荷額は、平成20年比46%の減少。要因は大手企業の撤退、事業縮小と考える。平成24年企業誘致条例を制定し、3企業が条例適用、市内操業開始。誘致に向け、広報活動や企業訪問、DM送付等のPR活動を実施して来た。今年8月には金融機関との情報交換会を実施したところだ。現在のところ、専門部署の設置は考えていないが、様々な機関と連携を密にする。「青梅市商・工業プラン」の中で現行の支援内容等を検証する。
(2回目質問)	(市長答弁)
市長の答弁では企業誘致の専門部署を作る考えは無いとのこと。これは残念です。増収策に企業誘致は大事です。私の提案にすぐハイやりますと言えないのは解りますが、もう一度答弁願います。	機構改革等の時期に検討してまいります。
(歳入面・市税収納率について)	(市長答弁)
② 26年度決算では、コンビ二収納の効果等で現年課税分98.5%、但し都26市中ではまだ下位。一方、滞納繰越分は29.1%、更に改善が必要と考へるが市長の見解は？滞納者への働きかけはどのようにしているか伺う？	② 平成22年の機構改革で「収納課」を作り、体制強化。平成22年18億円余の滞納繰越分が26年度では11億円に減少。今後、納付機会の拡大による利便性の向上、啓発活動の強化等で滞納防止を図る。
(2回目質問)	(市長・総務部長答弁)
差し押さえ・換価処分等に至るまでの対応をより詳しく説明願う。今後の収納率向上の取り組み方針を示されたい。	納期後20日以内に督促状、納付がなければ催告状、滞納が継続すれば、最押さえ予告。その後財産調査、自宅搜索、車はタイヤロック。のぼり旗、タイヤロック展示等PR。滞納整理の強化により収納率向上努力。
(歳入面・ふるさと納税について)	(市長答弁)
③ 6月の一般質問で返礼品の問題を取り上げ、9月から市内3社10品目で開始した。9月以降の寄付金額と返礼品額を問う。今後、歳入増収策としてふるさと納税に力を入れるべきと思うが？	③ 9月からの3ヶ月で、205件550万円の寄付金があり、返礼品の金額は149万円余。返礼品については、旅館宿泊券や温泉入浴券、イベントへの参加等青梅に人が来て、地域活性化につながることを期待している。
(歳出面・民生費、生活保護費について)	(市長答弁)
④ 27年度当初予算の内、民生費は233億円、全体の47.5%を占め、前年比472百万円の増。民生費の増加にどう対応するか？生活保護の保護世帯率は全国平均より0.3%も高く、都26市でも上位にある。一方不正受給の報道もある。実態と対応方針を問う。	④ 民生費の増加は少子高齢化の進展により、削減は大変困難な状況だ。生活保護の不正受給は26年度84件3,174万円余、27年度は11月末30件950万円余。この多くは、稼働収入及び年金収入の未申告である。就労や求職活動の状況把握の強化、就労支援体制の強化等を図る。

※質問の詳細内容については、ホームページを閲覧してください。 <http://www.minoru-kai.com/>

「議会報告」No. 3

私の質問	担当部門署の答弁
<p>(歳出面・一般会計から特別会計への繰り出しについて)</p> <p>⑤ 一般会計から国民健康保険会計、病院会計等の特別会計へ合計63億円余を繰り出し、一方収益事業からの繰り入れは2.1億円病院会計への繰り出しも将来困難になり、総合病院も青梅市単独では維持出来なくなる懸念もある。国保会計へ赤字補填11億円を市長はどう考えるか？これ以上の繰り出しは限界と考えるか？</p>	<p>(市長答弁)</p> <p>⑤ 歳出総額に占める繰り出し金の割合が11.8%。赤字補填分が一般会計の大きな負担となっている。国保会計は独立採算が本来の姿、税の公平性からも、赤字補填が大きく増えないように2年に、1度保険税率をみなおす。28年度改定に向け、国保運営協議会に諮問中で、答申内容を尊重する。他の特別会計の繰り出し金についても、可能な限り抑制に努めて行く。</p>
<p>(歳出面・青梅市公共施設再編計画について)</p> <p>⑥ (2回目質問) 今後の青梅市政に極めて大きな影響を及ぼす計画。公共施設再編というハード面に、市民サービスの維持に配慮し、運用を改善・効率化するソフト面も加味した計画とすべきと思うが？</p>	<p>(企画部長答弁)</p> <p>⑥ 公共施設再編等の取り組みは平成22年から開始し、建築物営繕の観点からの対応。しかし、重要なのは「施設」そのものよりサービスの中身だ。再編後の施設がより低いコストで高いサービスが提供できるよう検討する。</p>

ウメ輪紋ウイルス対策と梅の里再生計画については、6月議会質問後、半年間の主な変化に付き質問しました。

私の質問	市長答弁
<p>(ウメ輪紋ウイルス対策について)</p> <p>① 28年度の梅再植栽に向け、市を挙げて取り組んで来たが、10月の有識者会議では、再植栽可とはならず、判断が来年に持ち越された。</p> <p>(ア) まず、結論が延びた理由を具体的に説明願いたい。</p> <p>(イ) 伐採が遅れたのも問題視されたとの事であるが実態はどうか？</p> <p>(ウ) 来年OKを得るためには、今まで以上に強化策への取り組みを実効あるものにする必要がある。それに求められるものはか？</p> <p>(2回目の質問)</p> <p>① 伐採に応じない人への対応について、前市長は国・都ともに地元の力も借り従来以上に粘り強く説得し、了解を得る方針を表明しその方針の下、地元も協力し大変な努力をして来た事は承知している。またその成果も現れつつあるが、新市長の対応方針は？</p> <p>(梅の里再生計画について)</p> <p>② 「吉野梅郷梅祭り」に替わる「梅の里再生祭り」について伺う？このネーミングは私が前市長に提案し、採用された事に感謝しますが、どのような内容なのか？再生にどう結びつけるのか伺う？</p> <p>③ ウメ輪紋ウイルスの問題は青梅にとっては極めて大きな問題であるが、世間一般には十分に理解されていないと痛感している。全市民が一日も早い再生を望むが、そのPRがまだ不足している。様々な協力を得るためにも、広報活動の強化が必要と思うが？</p>	<p>① アブラムシ防除により、アブラムシの寄生率は低く、感染確率は低いと考えられるが、感染植物の即時伐採の遅れや枝打ち等の対策の取られてないものもあり、これがウイルスを保持した虫確認の原因の一つとされた。強化地区内に感染樹が残っている状態での再植栽は困難となるので、伐採に応じない人への対応は最重要課題。28年度中の再植栽を可能とするため、今まで以上に国・都との連携を密にし、働き掛けを強めて行く。</p> <p>(2回目の答弁)</p> <p>① 伐採に応じない人への対応について、これまで、国・都とともに地元の力も借りながら、粘り強く交渉を重ねた結果、同意を得たケースもあります。現時点でも同意の得られない人に対し、継続して重点的に交渉中です。28年度中の再植栽を見据え、国・都・青梅市が連携して交渉を継続する。</p> <p>② 再生への取り組みを広くPRし、イベント中心に集客する。従来の「市民まつり」を継承し、新たな食の開発や吉野梅郷を回遊する地域資源発掘型イベント、モザイクアートの展示など新たな取り組みを実施する。</p> <p>③ 所信表明で「梅の里の再生こそ、活力ある青梅を築く第一歩」と述べた。青梅の梅の現状や再生に向けた取り組みを、市内外に広く周知することが、一日も早い再生に繋がる。今年度、横断幕を作成し5小入り口の歩道橋等へ常時掲示を調整中。また、JR等でのPRも検討中である。</p>

小中学校児童生徒の学力向上は未だ十分な効果が上がっていませんが、地道な努力の継続を強く要望しました。

私の質問	教育長答弁
<p>① 学力向上、教育全般の向上には、保護者の関心と協力が不可欠。学力の状況は保護者に十分伝えているか？理解されているか？</p> <p>② 家庭学習の強化の成果は見られるか？</p> <p>③ 子供達一人一人にチャレンジ目標を持たせる指導はどうか？</p> <p>④ 少人数で成績の良い学校があるが、何が優れているのか？他校で取り入れる要素はないのか？</p> <p>⑤ サタデースクールの実状と改善の余地は？</p> <p>(2回目の質問)</p> <p>子供達に自信を持たせ、学習意欲を高めさせる事が重要と考える。この視点での何か新たな方策は考えられないか？</p>	<p>① 「保護者会」や定期発行の「学校だより」やHPへの掲載等により周知し学校の取り組みに理解を頂くよう努めているが、十分とは言えない。</p> <p>② 読み書き・計算という基礎的な学習内容の習得に効果が出てきた。毎日の家庭学習に取り組む児童生徒が増え、平均学習時間が伸びた。</p> <p>③ 子供達に学習目標を持たせることは、大切であると捉えている。一人一人に適した目標とするため、子供自身に習得状況を理解させる事が重要。</p> <p>④ 学習内容に応じて、習熟度別クラス編成を繰り返し実施し、児童生徒の学習実態に適した指導等。成果を上げている事例を市内全校で共有する。</p> <p>⑤ 登録率が低い。指導員を増員し個別指導。対象学年の拡大を検討する。</p> <p>(2回目答弁)</p> <p>来年1月から、新たに「力だめしドリル」を全校で取り組む予定。問題慣れする事を目標に取り組み、子供達の自信と意欲に繋げる。</p>